

校訓
至誠勵業
剛健成風
操守堅固



関西
朝ぼらけ



発行責任者
関西福中・福高同窓会
板澤 達男(高35)
奈良県生駒市
萩の台5-1-3-204

tatsuoitazawa@gmail.com

“ラグビーワールドカップ2019” 熱く戦う姿に感動の日々。

上林 久美子(高29回)
「4年に一度じゃない。一生に一度だ。このキャッチコピーにワクワクしながら開幕を迎えた。幸いチケット運が良かったようで、日本戦全5試合、全部で11試合観戦でき、周りの友人にもワールドカップを楽しんでもらうことも出来た。残念ながら私のことを「にわか」だと思っている人もいるようだ。でも、福高関係者なら知っている。福高卒業生にラグビーファンがいかに多いかを……」

最後のノーサイド

日本戦で何度も歓喜の声を上げて涙してきた中、10月20日南アフリカ戦で日本が敗れた瞬間、今までの何だか違う涙があふれてきた。その気持ちとはとても一言では言い表せないけれど、少なくとも、負けたから「悔しい」、終わったから「残念」という涙ではない。後でトンプソン選手もコメントしていたように、強いて言えば「寂しい」といった方がいいだろうか。ベスト8まで来れた！その喜びが充滿した中で何かが「終わった」という寂しさが、その瞬間は心を埋めていた。

ノーサイドとなり、選手たちは、ビクトリロードを歌い、取材に答えながら、スタンドのファンの声援に応えながら、最後となるこのチームの仲間と思い思いに写真を撮ったりしながら、この二度とないひと時を過ごしていた。そして、一人、また一人と選手がグラウンドから去っていく。私は、近くで最後まで見送ることにした。そこには、やりきった後のすがすがしい笑顔があった。それを見るのが出来て感無量。よく言う「やるか、やらないか」ではなく、それを越えた世界を感じた。桜の戦士たちのその笑顔に接して「やりきった

かどうか」こそが全てなんだと思えた。福岡君はバックス勢4人で最後までグラウンドに残っていた。笑顔がほんとに爽やかだった。私は、持参した福高タオルを大きく振った。

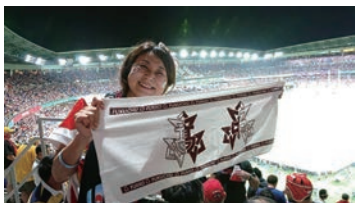
観客席のムード

「全てを犠牲にしてきた」と、熱く戦う姿に感動の日々。観客席からその姿を追いかけた二人として日本戦を少し振り返ってみよう。

初戦のロシア戦。世界の大舞台を経験している面々だが、あんなに日本人がいつぱいのスタジアムというのは初めての光景だっただろう。本場に圧巻だった。開始直後、緊張感からかミスが目立った。あの時「あー」と声を出しかけた観客席だったが、そのネガティブな声が不要だ、という共通の思いが全体に伝わったかのように、一瞬でその声を飲み込み、ひとつの大きな声援に変わった。

2戦目、アイルランド戦。「誰も勝つと思っていない……」とのコメントがあったが、いやいや、スタジアムでは勝利を信じていたよ。ただ、前半は、二度目の「奇跡」を願っていた。が、試合が進む中「奇跡」じゃなく、本當に勝てるね！とムードは変わっていた。「もう奇跡とは言わせない」「あのコメントは、後で知った。本當に記念すべき一戦であった。

後のスコットランド戦。稲垣選手の劇的なトライに続く3トライ目。ラファエレ選手が蹴ったボールに追いついた福岡君が右手に吸い付くようにボールを



取って決めたトライ。その瞬間を私は正面で観ることができた。映像で何度も流れるシーンとは少し違う、私だけの角度で：一生に一度きりのシーン。これぞライブ！を堪能した。

ONE TEAMの先へ

RWC2019が終わって、日本のラグビーを取り巻く状況が確実に変わったと感じる。1年ほど前からラグビーを知らない知人にもRWCの話をし続けてきた。今では久々に会う人が私とワールドカップ談義をしたがってくれている。「にわかだけどね」と笑っていた多くの人たちは、新たな仲間となった。「もう、にわかとは言わせない」。そして、スタジアムのラグビー少年たち。キラキラをみなぎらせている姿に「君たちは一生に一度じゃないよ。きっとまた来るよ！」と思わず伝えた。

日本の戦績だけでなく、ラグビーというスポーツの持つ精神性まで多くの人に届けることとなった今回のRWC。「スクラム組んで行こう」という、従来のチームワークの共通語に、「ONE TEAM」という言葉が加わった。閉幕後も、選手たちの姿をTVで見る日も多く、そして、トップリーグシーズンへと時節は進んだ。そして、東京オリンピックへ。そして次なるワールドカップへ……。スポーツやラグビーの話題のオフロードパスがつながっていく。



福中・福高同窓会

【事務局】

〒812-0043 福岡市博多区堅粕1-29-1 福高記念館内

TEL092-641-7258 FAX092-641-3923 f-chiyogento@alpha.ocn.ne.jp

令和元年はエポックメイキングの年！ （福高ラグビー部にとって）

山本 良雄（高22回）

昨年は日本中を歓喜の渦に巻き込んだラグビーワールドカップが9月20日から11月2日まで日本各地で開催されました。

日本は予選リーグを4戦全勝で突破し、初めて決勝トーナメントに進出したことは記憶に新しいところです。

この大会に63回の福岡堅樹君（以下福岡君という）が2大会連続ウイングとして選ばれ、4試合に出場し、衝撃のスピードでグラウンドを駆け抜け4トライを挙げて勝利に大きく貢献しました。

思い起こせば11年前、福岡君が2年生の時私が福高のラグビーグラウンドに足を運んだ時のエピソードです。22回の森重隆（以下森君という）監督から「良雄（私の呼び名）、初めて貫（22回の渡辺貫一郎君、快足ウイングとして鳴らした）より速か奴を見たぜ」と声をかけられました。その「速か奴」が福岡君だったことは言うまでもありません。その頃から今日の活躍を予感させていたのです。

そして、7月1日付で森君が日本ラグビー協会の会長に就任しました。

ワールドカップ直前の役員交代で大会がどうなることかと心配されていました。

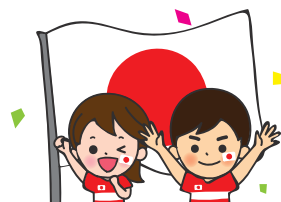
たが、関係者の努力と新会長が持っていたのでしよう。大会は大成功に終わりました。

ラグビー部は、大正13年創部の九州中等学校ラグビーの草分けであり、近々100周年を迎えます。

「身を殺して仁を成す」という言葉が昔から部に受け継がれています。英語で「One For All、All For One」の「One For All」に当たると思っています。

要するに自分を犠牲にしてもボールやチームを生かすの精神です。これこそが仲間と信頼を深め、絆を強める基本となるものです。実際ワールドカップにおいて攻守に渡って奮闘する福岡君を観ていると森君の薫陶が生きていると感じました。

今年の花園は100回目の記念大会であり、福岡県は2校出場できるので、ぜひ10年前の90回大会の再来を期待しています。



関西写真記者協会2019年スポーツ部門金賞受賞 ファイインター越しのラグビーW杯

成瀬 徹（高34回）

高校34回の成瀬徹です。

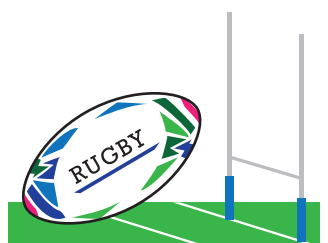
思いだしますね、学生服の襟につけていた校章がラグビーボール型だった事を。高校1年でラグビーに出会って40年余りですが、56歳のラグビー好きおやじにとって2019年はうれしい1年になりました。まずは森重隆先輩（高22回）の日本ラグビー協会の会長就任です。

福高ラグビー部のレジェンドがワールドカップ日本大会開催前にトップに登りつめました。監督として母校を久しぶりに花園出場に導き、あの福岡堅樹さん（高63回）の決勝トライで本郷高校を破つたのは9年前とは言え、記憶に新しいですね。W杯が始まったのが1987年です。私がスポーツ新聞に入社し、写真撮り始めたのが、翌88年。W杯は4年に1回です。私から取材するチャンスは7回ありましたが、何故か出番がなく、せっかくの日本代表の取材ではなく、

大阪（花園ラグビー場）、神戸（フエビスタスタジアム神戸）中心で日本代表の取材予定は当初なかったのです。しかし、今回の日本代表には後輩であるあの福岡堅樹さん（高63回）の活躍が注目を集めています。是非撮影したいところでした。日本で開催されるラグビーW杯ですが、多国籍軍と抑諷（やゆ）されがちだった日本代表も、流行語大賞に輝いた「ONE TEAM」のスローガンのもと躍進し、日本列島を興奮の渦に巻き込みました。そうして迎えた10月5日。いろんな偶然が重なり、私に撮影の出番がきた日本VSサモア@豊田スタジアム、なんと松島さんとWフェラーリと賞賛された福岡堅樹さんが目の前にトライしてくれて（写真）ではありませんが、いい後輩です（笑）。私のラグビーW杯取材はこれで終了しましたが、忘れられない仕事になりました。



あと余談ですが、関西にはTVと新聞のカメラマンが円滑な取材を行う便宜を図る関西写真記者協会という組織があり、年に一回その年の優秀な作品を投票で決めます。なんと2019年のスポーツ部門金賞（1位）に私が撮影したラグビーW杯の写真が選ばれました。後輩の勇姿といたるところですが、なんとイタリアの選手がナミビアの選手にズボンを下ろされかけた後、桜柄でJAPANNの文字が垣間見える（写真）というシュールなものです。これもうれしい1年を締めくくる慶事になりました。



ラグビーの神社、 雑太社（さわたしゃ）

荻田 玲子（高23回）

明治43年9月10日、旧制第三高校（現京都大学）の学生と慶應義塾大学生のあいだでラグビーの練習試合が紉の森（ただすのもり）で行われました。

そのとき関西で初めてラグビーボールが蹴られたのです。

その歴史を後世に伝えるため、下鴨神社の末社、雑太社には「第一蹴の地」の記念碑があります。ラグビーボールの形の絵馬にはラグビーを愛する人たちの願いがたくさん書いてありました。

その歴史を後世に伝えるため、下鴨神社の末社、雑太社には「第一蹴の地」の記念碑があります。ラグビーボールの形の絵馬にはラグビーを愛する人たちの願いがたくさん書いてありました。

同窓会に思う

昨年末に我々が敬愛して止まない中村哲さん(高17回)が凶弾に倒れ尊い命を落とされました。母校の百周年を記念したパネルディスプレイや関西福中・福高同窓会総会での記念講演などで、そのお人柄に直接触れられた方も多いのではないかと思います。あまりにも唐突にあまりにもショックな事件であり、福中・福高は言うに及ばず日本そして世界中の大きな悲しみとなりました。心から哀悼の意を表します。

一方、福岡堅樹君(高63回)の活躍に因りラグビーワールドカップが大成功を納め日本中を熱狂させました。関西福中・福高は本号の特集として大きく取り上げられていますのでこちらに譲ります。

百周年記念事業の目玉でもある講堂が完成したことも大きな喜びです。全てを皆の寄付により行うという取り組みにより完成した講堂は福中・福高に新たな歴史を刻み、若い後輩たちを育てる場として活用されるに相応しいものであります。その柿落しとして九州交響楽団の演奏会が開催されました。耳慣れた楽曲は新しい講堂のスタートにふさわしいものであり、芸術の分野においても活躍する福高OBを印象付けるも

岡部 和也(高28回)

のでした。最後には校歌が演奏され、九響を伴奏に歌う校歌に感極まり涙したの私は私だけではなかったと思います。

併設の学食は居酒屋竹乃屋さん(高26回)竹野さんの店が運営しており、スマホによる予約決済システムが導入されたこともマスコミで取り上げられました。

このようにマスコミで福岡高校と言う言葉を見聞きする度に誇らしく思い、その思いを世代を超えて語らう場を提供する事こそが同窓会の存在意義そのものであると考えています。関西福中・福高では愉しいイベントを準備しています。まずは総会&懇親会に参加いただき皆で応援歌を高らかに歌いましょう。

第5回
初夏は京都伏見散策と利き酒の会

酒井 亮直(高51回)

てまいりました。

令和元年6月22日(土)、5回目となる伏見利き酒の会を開催しました。前年は大型台風の影響に遭い中止となりましたが、本年は天気に恵まれ無事に開催されました。高12回から高63回まで様々な年代のお酒好き同窓生11名にご参加頂きました。今回は、伏見で酒造を営む酒蔵・20歳うちの3歳を巡りお酒を頂戴致しました。

まずは食前酒を、伏見を代表する銘酒・月桂冠の大倉記念館で頂きました。こちらは、国内外より年間15万人が訪れる伏見屈指の人氣施設です。

末信先輩(高47回)のご手配で、特別なアテンドを付けて頂き、日本酒造りの歴史をじっくりご案内頂いた後、記念館限定酒やプラムワインで、胃腸をウォーミングアップさせました。

続く食中酒は、清酒・神聖が営む鶏料理店 鳥せい本店にて頂きました。こちらは、明治・大正期に建てられた築百余年の酒蔵を改装したもので当時の風情を残し、週末は待ち時間が数時間に及ぶほど人気のある飲食店です。直営する山本家は、茶道と関係の深い酒蔵で、懐石料理に合うお酒を得意としています。こちらでは、酒米・精米歩合造り方の違う特別酒(時価・万円)を利用



締めめの食後酒として、流行の地ビール・京都麦酒を、黄桜伏見蔵で頂きました。黄桜伏見蔵は、2016年に完成した現代の明るい酒蔵で、最新の日本酒造りと地ビール造りを、ガラス越しに間近で見学できました。カツパのロゴで有名な黄桜株式会社ですが、設立から60数年と伏見では若い企業です。後発メーカーにも関わらず今日の成功を築いた自信が溢れる素晴らしい酒蔵でした。昼から夕方までの駆け足での利き酒会でしたが、三大酒処の一つ「京・伏水」の街を和気あいあいとじっくり味わって頂いたのだと思います。お酒が好きな方も苦手な方も味処に溢れる名水の街伏見を一緒に巡ってみませんか? 同窓生皆さまのご参加をお待ちしております。

第36回
関西福中・福高同窓会総会振り返り

玉川 裕基(高52回)

令和初となる第36回関西福中・福高同窓会総会に、当番幹事として参加させて頂きました。まずは当日参加して頂いた同窓会会員の皆さま、当番幹事として活躍して頂いた「2」の回の諸先輩方、困った時に支えて下さった常任幹事の皆さま、本当にありがとうございました。おかげさまで総勢110名の大変盛り上がり、総会になりました。また、福中・福高同窓会会長の藤先生をはじめご来賓としてご参加頂きました皆さま、他地域からご参加くださった皆さま、本当にありがとうございました。そして、なにより大盛況であった「井戸端トーク」にゲストスピーカーとしてご登壇いただきました。高20回の川原正孝先輩、高25回の木田洋一先輩、高38回の江口カン先輩、ご多用な時期にもかかわらず同窓生のためならご快諾いただき本当にありがとうございました。当日からわつて下さったみなさまに改めて心より感謝申し上げます。

思い返せば、35回総会の当番幹事引継のとき「2」の回の先輩が参加されておらず、来年は大丈夫か?と不安だらけのスタートでした。11月時点、高33回の川井さん、高42回の中島さん、田中さんが打合せに参加して下さり「安心」と思ったのも束の間、ゲストが決まらない。年が明け1月末の新年会時点でもゲストは決まっておらず不安は日増しに。しかし2月に状



況は急転、常任幹事の皆さまのお力添えで、前述のお三方がトークゲストに決定。ただこれだけのビッグゲストが来て下さるのだから大成功させねばと。今度は大きなプレッシャーが。本番まで残り2か月、1か月と迫っていく中で少しずつ形にはなっていくも、過密なスケジュールで動くお三方とは事前の顔合わせもできないまま当日。ええいままよ、と迎えたゲストタイム。が、結果は何も心配などする必要はありませんでした。さすがはプロフェッショナルなお三方。高校時代の思い出話や、仕事に対する姿勢など。笑いあり感動ありのあつという間の90分でした。

当番幹事を経験させてもらい感じたこと。それは先輩方の優しさ、面倒見の良さ、そして母校愛の強さ。改めて福岡高校を卒業できたことを誇りに感じました。9年後はぜひ高62回、72回の後輩たちに私と同じような素晴らしい経験をしてもらいたいです!

ボルネオ島滞在記

井上 啓子(高22回)



関西げた会

ひょんなご縁でマレーシアの小さな教室で日本語を教えることになった。この話を持ち込んだ夫は同行しないと言うので二人で行くこと?とて顔されたけど一緒に来んと?と私の方がびつくり、単身赴任決定。生まれて初めての一人暮らしを未知の南国、ボルネオ島で始めることになった。

ボルネオ島の北西部の一部がマレーシア領で、その南部サラワク州の州都クチン市で3ヶ月の単身生活である。

サラワク州は上等の胡椒やパーム油の生産で有名。最初にびつくりしたのは州都でありながら公共交通機関がない。車やバイクを持たない人はタクシーかGRABという公認白タクを使う。GRABはUberと似ていてアプリを起動して目的地を入力すると、近くにいる車の運転者の顔写真とナンバー、車体の色、そして目的地までの料金(格安!)が表示される安心のシステム。その料金が日本のバスより安いのにびつくり。

ドライバーはプロではないので、たまにハプニングも。クアラランプールで高速の路側帯をソロソと後退して間違えた分岐を修正されたり、目的地に着かずナビが間違った、グメンと謝られたり。

後部座席の窓にヤモリが挟まってるのに気づいた友人が高速走行中に止めて!と叫び(その方がコワイ!)、運転手が路

側帯に停車した事もあったなあ。

ま、事故にあう事もなく目的地にちゃんと到着したけどハラハラドキドキだった。

また、マレーシア国民の大半を占めるイスラム教徒のラマダンが滞在中に始まり面白い体験をすることが出来た。

新月から次の新月迄の間、日中は何も口にせず、日没と共に一斉に食事を始めるように、偶然知り合つて仲良くなった大学の後輩とその御主人(ムスリム)と食事に出かけてレストランで見た光景は異様だった。オーダーした美味しそうな馳走が卓上にズラリと並ぶのを眼の前にして日没を待ち、その時が来ればお祈りも合図もなく一斉に食事が始まる。断食という教えを守る期間、ムスリムの人たちの心は逆に食べる事で頭が一杯なのかもと思った。

期間内だけのラマダンマーケットでは美味しそうな惣菜や馳走が山の様に並んでいて、みんな嬉々として買い物をしている。ラマダンは毎日没後に普段よりご馳走を食べる期間の様で、ラマダン明けのハリラヤは日本のお正月のように着飾って親戚や知人友人を招きあい食事やお菓子を振る舞う。私も美しいムスリムのマダムからお招きを受けて、ちょうど日本から遊びに来ていた友人や同僚とハリラヤのオープンハウスを体験することが出来た。美しく整えられたお宅でおも

てなしを受け楽しい時間を過ごした。

この他、現地で旅行社を経営する日本人にジャングル植林に誘って頂き、植林の後で先住民イバン族の伝統的な住みであるロングハウスでお茶をこ馳走になった。ロングハウスはその名の通り巨大な長屋で、20メートルもあるような長い長い建物で外廊と内廊下という面して住まいがアパートの様に並び、1棟に200人近くが住んでいるというもの。

この他にも初めての興味深い体験をしているうちに3ヶ月はあっという間に過ぎた。本当に瞬く間だった。クチン市の人々は穏やかで心優しい。すれ違う時ニコッと微笑む人も多い。一言で言えば田舎なのだが、クアラランプールやコタキナバル等には無いのんびりした空気が漂う。

3ヶ月住んで大好きになったクチン市は是非再訪したい街で旅行先としてもお勧めである。

安全で南国の果物が美味しくて物価はとても安い。赤道に近いのでちょっと暑いけど。



総会・懇親会のご案内

第37回 関西福中・福高同窓会 総会・懇親会

日時 2020年5月16日(土) 場所 ホテルエルセラーン大阪

総会案内 & 年会費納入のお願い

同窓会活動の基本となる年会費(2,000円)の納入にご協力ください。総会参加の方は会場受付にて、不参加の方は同封の振込用紙(卒業明記)で納入してください。ご理解のほど、よろしくお願い致します。

2020年度行事予定

- 総会・懇親会 5月16日(土)
- 幹事会 4月、11月、1月、3月
- 利き酒会 6~7月頃
- 納涼ビアパーティ 8月28日(予定)

関西福中・福高同窓会のHPで情報チェック!

行事のご案内や、出欠の連絡フォームなどを随時更新。
『関西朝ぼらけ』やインタビュー記事なども掲載しています。
ぜひアクセスしてください!

<https://kansai-fukuchufukkou.com>



同好会便り

●どんたく会(ゴルフ同好会)

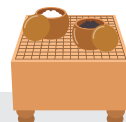
どんたく会は春(4月)、秋(9月)の定例コンペと、秋(10月)の修猷館ゴルフ同好会との対抗戦を行っています。

どんたく会統括幹事 川口義明 TEL/FAX/06-6850-0230
Eメール/yoshiaki11171117@yahoo.co.jp

●うろうろ会(囲碁同好会)

毎月最終土曜日に定例会を開催。
また年2回修猷館と対抗戦を実施。会員募集中です。

うろうろ会幹事 中村龍彦(高12) TEL/090-7413-3070



明太子をつくってよかった。

博多中洲 **fふくや**

博多名物明太子は、ふくや創業者・川原俊夫の考案により、昭和24年に生まれました。明太子発祥の店ふくやの明太子をぜひご賞味ください。



必要な量だけご注文ください!!

切れ子明太子の量り売り

無着色中辛

【辛さの度合い】 ●○○○○

無着色辛口

【辛さの度合い】 ●●●○○

100gあたり 税込 701円



こちらの
会報誌持参で

粗品プレゼント

有効期限
2021年3月31日

